

今しか聞けない！

第8回神奈川証言集会

＜日時＞ 5月29日（土）13時開会（12時30分開場）

＜場所＞ かながわ県民センター403（横浜駅から徒歩5分）

資料代 500円（学生は無料です）

＜証言＞私を侵略戦争に突き進ませたものは何か 私の戦争体験を、恥を忍んで証言します

証言者： 松本栄好さん（相模原市在住88才・中国山西省での戦争体験者）

解説者： 石田隆至さん（大学教員） 張宏波さん（大学教員）

松本さんは召集されて1944年2月から敗戦まで、中国山西省の孟県で侵略戦争に参加しました。松本さんたちが配属されたときにはすで先遣部隊が残虐の限りをつくしてさんざんに荒らし回った後であった。それでも松本さんたちはなおいっそう、八路軍の「掃討作戦」に狩り出されました。その中で映画「ガイサンシーとその姉妹たち」に出てくるような残虐な行為も体験し、見てきています。

松本さんは「現在は過去の上にある。過去を語ることは過去を生きた者の責務である」との信念のもと、“恥を忍んで”証言を決意されました。

当時、山西省は軍閥閻錫山^{えんしやくさん}の支配地域でした。だが農民を味方にした八路軍とのせめぎ合いでは歯が立たず、進出していた日本軍と手を組んだ。閻錫山軍の弱みを握った日本軍のここぞとばかり、やりたい放題の中国人への婦女子への暴行、残虐行為は言語を絶する。

放題の限りを尽くした部隊はすでに沖縄防衛のために転出していた。彼らが山西省での体験に基づいて沖縄住民にどのように接していたかも想像できるのではないのでしょうか。そしてその部隊は沖縄で全滅の悲劇にさらされた。そのため孟県での事実を知る者も語る者も今やほとんどいない。

山西省は松本さんも経験した「山西残留問題」の舞台でもあり、松本さんの語る言葉は重い。ぜひ一人でも多くの方に聞いていただきたい。

* 高齢の証言者の体調の事情によってはビデオ証言とさせていただきます。

＜主催＞ 撫順の奇蹟を受け継ぐ会神奈川支部（連絡先 松山 TEL 046-871-4263）

「山西残留問題」とは

終戦により、当然にも外地派遣部隊は帰国復員することになった。だが、戦時中から山西省では日本軍と山西軍（閻錫山軍）とは親密な関係にあり、日本軍が引き揚げると八路軍との戦いでできなくなることを危惧した閻錫山軍は日本軍残留を企図した。

それは、A級戦犯に問われる動きを察知した澄田暎四郎司令官の思惑と一致した。ために内部向けには「命令」によって残留を迫り、北支那派遣軍司令部への報告は「全員帰国した」と報告しなければならなかった。そのためにいったん軍籍から外す、という処置をとり、「山西軍」へ編入されていたのだった。すなわち「勝手に残った」「逃亡兵」の扱いとして、である。

軍籍を外された時点から、日本軍の記録からは末梢された。記録には一切ない。550名もの戦死者を生み出した激しい戦争は「その事実は無かった」のです。帰国後国会で、澄田、山岡らは（残留部隊は）「自願だった」と証言した。

稲葉さんたち兵隊は、戦後11年を経て56年7月に帰国するまでその事実は知らなかった。3月14日証言集会「山西残留」は軍命であった<証言者：稲葉績さん（86才：「山西省残留」体験者）>のチラシ裏面から

97才 現役の証言者「絵鳩 毅」さん著 小冊子「撫順戦犯管理所の6年」 —監獄が自己改造の学校だった—を発刊！

このたび、撫順の奇蹟を受け継ぐ会神奈川支部は上記小冊子を発刊しました。

小冊子は64ページです。3時間や4時間ではとても語りきれない、絵鳩さんの貴重な体験が詰まっています。撫順戦犯管理所で「本当に何があったのか」、ぜひじっくりと繰り返し、繰り返しお読みいただく意味のある冊子に仕上がったと確信しています。以下の方法で注文してください。

販売価格、販売方法について

販売価格 集會会場などでの直接販売の場合 1部400円

● 送付の場合

3部まではプラス送料及び手数料100円 6部まではプラス送料及び手数料200円

9部まではプラス送料及び手数料300円 10部以上の方は送料などを販売者側で負担します。

- 支払方法は振込用紙を同封します。

注文方法は下記により、お願いします。

メール、およびFAXで、注文者、または発送先の①〒番号、②住所、氏名、③TELを記入してご連絡ください。

FAX(TEL 兼用)： 046-871-4263

メールアドレス：kan.mat.hid@tbc.t-com.ne.jp